

# 3 膠原病と肥満細胞

## Collagen disease and mast cells

三木田直哉  
MIKITA Naoya  
和歌山県立医科大学皮膚科学助教

古川福実  
FURUKAWA Fukumi  
和歌山県立医科大学皮膚科学教授

### Summary

肥満細胞は、IgE に対する受容体以外にも多くの受容体を細胞表面に有し、種々の刺激に対してヒスタミンに加えさまざまなサイトカインやケモカインを含むメディエーターを産生・放出し、さらにT細胞などの免疫細胞と直接的にも相互作用をすることで、多くの免疫反応に関与する。そのためアレルギー疾患に加えて、水疱性類天疱瘡や関節リウマチ、多発性硬化症などの自己免疫疾患においてもその関与が推察されてきた。膠原病においてもいくつかの報告があり、全身性エリテマトーデスについてはMRL/lprマウスのループス様皮膚病変での知見を含め、全身性強皮症については線維化の誘導という観点から両疾患における肥満細胞の関与について述べる。

#### 全身性エリテマトーデス

蝶形紅斑などの皮膚症状やループス腎炎などの臓器症状を呈する代表的な膠原病のひとつ。病態として主に形質細胞様樹状細胞からの異常なIFN- $\alpha$ 産生が注目されるが、近年、自己反応性IgEの関与も示唆される。

#### MRL/lprマウス

アポトーシスに関連するFas遺伝子の変異により、脾腫や全身リンパ節腫脹とともに、抗核抗体、抗ds-DNA抗体やループス腎炎、ループス様皮膚病変を生じる全身性エリテマトーデスのモデルマウスのひとつ。

#### KEY WORDS

自己免疫疾患／関節リウマチ／全身性エリテマトーデス／MRL/lprマウス／全身性強皮症